

平成19年度 事業報告書

(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

学校法人大阪電気通信大学

学校法人大阪電気通信大学 平成19年度 事業報告書

(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

1 法人の概要

1 設置する学校・学部・学科等 (平成20年3月31日現在)

(1) 大阪電気通信大学

大学院工学研究科

博士課程 (前期・後期)

総合電子工学専攻、電子通信工学専攻、制御機械工学専攻、情報工学専攻

大学院医療福祉工学研究科

博士課程 (前期・後期)

医療福祉工学専攻

大学院総合情報学研究科

博士課程 (前期・後期)

コンピュータサイエンス専攻

大学院総合情報学研究科

修士課程

メディア情報文化学専攻、デジタルゲーム学専攻

工学部

電子工学科、応用化学科、電子機械工学科、機械工学科、環境技術学科、基礎理工学科、通信工学科 (学生募集停止)、光システム工学科 (学生募集停止)

工学部第2部

電子工学科 (学生募集停止)、機械工学科 (学生募集停止)

医療福祉工学部

医療福祉工学科、理学療法学科

情報通信工学部

情報工学科、通信工学科、光・エレクトロニクス学科

総合情報学部

デジタルアート・アニメーション学科、デジタルゲーム学科、メディアコンピュータシステム学科、情報工学科 (学生募集停止)

(2) 大阪電気通信大学短期大学部

電子情報学科 (学生募集停止)

(3) 大阪電気通信大学高等学校

普通科

電子工業科

2 学部・学科等の定員、在籍学生数の状況（平成19年5月1日現在）

（1）大阪電気通信大学

学部（研究科）	学科（専攻）	入学定員	入学者数	収容定員	1年次	2年次	3年次	4年次	合計
工 学 研 究 科	総合電子工学専攻（前期）	15	13	30	14	10			24
	総合電子工学専攻（後期）	3	1	11	1	1	2		4
	電子通信工学専攻（前期）	20	13	40	13	19			32
	電子通信工学専攻（後期）	3	1	6	1	0	—		1
	制御機械工学専攻（前期）	30	33	60	33	34			67
	制御機械工学専攻（後期）	5	0	15	0	2	0		2
	情報工学専攻（前期）	35	18	70	18	19			37
	情報工学専攻（後期）	5	0	15	0	1	0		1
	小 計	116	79	247	80	86	2		168
医療福祉工学研究科	医療福祉工学専攻（前期）	10	10	20	10	9			19
	医療福祉工学専攻（後期）	5	2	5	2	—	—		2
	小 計	15	12	25	12	9	—		21
総合情報学研究科	デジタルアート・アニメーション学専攻	10	13	20	13	6			19
	デジタルゲーム学専攻	10	9	20	9	4			13
	コンピュータサイエンス専攻（前期）	10	1	20	1	3			4
	コンピュータサイエンス専攻（後期）	5	2	5	2	—	—		2
	小 計	35	25	65	25	13			38
大 学 院 計		166	116	337	117	108	2		227
工 学 部 （工学部第1部）	電 子 工 学 科	90	102	390	125	115	106	115	461
	通 信 工 学 科	—	—	100	0	4	11	104	119
	応 用 化 学 科	80	55	320	69	92	85	79	325
	電 子 機 械 工 学 科	90	104	390	115	123	130	95	463
	機 械 工 学 科	90	120	360	128	114	98	110	450
	光 シ ス テ ム 工 学 科	—	—	80	0	2	18	89	109
	環 境 技 術 学 科	60	54	120	56	67	—	—	123
	基 礎 理 工 学 科	40	37	40	37	—	—	—	37
	小 計	450	472	1,800	530	517	448	592	2,087
工 学 部 第 2 部	電 子 工 学 科	—	—	100	0	7	43	64	114
	機 械 工 学 科	—	—	100	1	7	45	54	107
	小 計	—	—	200	1	14	88	118	221
医 療 福 祉 工 学 部	医 療 福 祉 工 学 科	120	145	460	150	128	156	105	539
	理 学 療 法 学 科	40	51	80	51	43	—	—	94
	小 計	160	196	540	201	171	156	105	633
情 報 通 信 工 学 部	情 報 工 学 科	160	196	520	224	202	177	—	603
	通 信 工 学 科	80	99	260	118	97	87	—	302
	光・エレクトロニクス学科	80	27	240	42	83	82	—	207
	小 計	320	322	1,020	384	382	346	—	1,112
総 合 情 報 学 部	情 報 工 学 科	—	—	180	0	10	28	184	222
	デジタルアート・アニメーション学科	100	130	490	145	136	164	144	589
	デジタルゲーム学科	110	148	500	155	141	144	113	553
	メディアコンピュータシステム学科	70	105	210	124	87	84	—	295
	小 計	280	383	1,380	424	374	420	441	1,659
学 部 計		1,210	1,373	4,940	1,540	1,458	1,458	1,256	5,712
合 計		1,376	1,489	5,225	1,657	1,661	1,460	1,256	5,939

（2）大阪電気通信大学短期大学部

学 科	入学定員	入学者数	収容定員	1年次	2年次	合 計
電 子 情 報 学 科	—	—	80	1	43	44

（3）大阪電気通信大学高等学校

学 科	募集人数	入学者数	1年次	2年次	3年次	合 計
普 通 科	160	120	123	133	121	377
電 子 工 業 科	160	150	154	209	171	534
合 計	320	270	277	342	292	911

3 役員・教職員の人数（平成20年3月31日現在）

(1) 役員

理事 16 人（うち、理事長1人、副理事長1人）
 監事 2 人

(2) 教員

大阪電気通信大学

	専任				非常勤
	教授	准教授	講師	計	
工学部	35	19	12	66	116
工学部第2部	2	2	0	4	19
医療福祉工学部	12	9	2	23	57
情報通信工学部	23	6	11	40	74
総合情報学部	17	13	7	37	32
計	89	49	32	170	298

大阪電気通信大学短期大学部

	専任				非常勤
	教授	准教授	講師	計	
電子情報学科	2	0	0	2	10

大阪電気通信大学高等学校

専任	非常勤
教諭	
49	28

(3) 職員

大阪電気通信大学

区分	人数
職員	89
嘱託職員	16
計	105

大阪電気通信大学高等学校

区分	人数
職員	4

2 事業の概要

(1) 平成19年度の事業の概要

本学は、平成7年度に情報工学部（平成12年度より総合情報学部に変更）の設置をはじめとするあらゆる改革を今日まで推進し、財務の安定と教育研究機関として内容の充実・向上に努めてきました。これからも本学の特色を最大限にいかした斬新な改革を鋭意検討し、実行して行くことで21世紀における新しい教育、研究体制を確立し、将来とも魅力ある学園にすることが必要であります。このような将来の方針と本学の財政状況を踏まえ、四條畷学舎及び寝屋川高宮学舎の施設・設備の教育研究環境をより充実させるよう努めてまいりました。

平成18年度からの寝屋川初町学舎再開発事業の一環として、新学生ホール建築に引き続き新教育棟（仮称ニューエデュケーションセンター）工事に着工（完成予定平成20年10月）しました。

(2) 平成19年度の主な事業の内容

イ、教育研究体制の充実・整備関係

大学関係

教育研究体制の充実・整備を図るべく文部科学省に設置の届出を実施し、平成20年4月から開設しております。

医療福祉工学部「健康スポーツ科学科（入学定員70名、3年次編入学定員5名）」（改組転換による）

ロ、教育研究活動関係

大学関係

①特色ある大学教育支援プログラム（特色G P）

- ・文部科学省が、大学・短大の優れた教育に補助金を重点配分する「特色ある大学教育支援プログラム」の「教育方法の工夫改善を主とする取り組み」に、本学の「企業熟練技術者を活用した産学連携工学教育」が選定されました。平成19年度総事業費は16,134千円です。

②地域との交流

- ・寝屋川市にて、大学自由工房とNPO法人ねやまちネットが主催する「ロボットによる科学技術の体験講座」を開催しました。
- ・四條畷市民総合センターで開催された「第3回なわてふれあい商工まつり」で、自由工房は、ロボットの実演を行いました。また、地元企業・大学研究機関の展示コーナーに、デジタルゲーム学科が日頃の取組みを紹介しました。
- ・京阪古川橋駅にて開催された「ラブリーフェスタ」に自由工房がロボットを出展しました。

③産学官連携事業

- ・健康に関する人材育成と機器開発の分野で、本大学と株式会社コナミスポーツ&ライフと産学連携を実施しました。
- ・クリエイション・コア東大阪にて本大学と大阪産業振興機構ものづくり支援部で、「生涯健康支援システム研究会」を発足させ、日常生活で拘束されずに健康状態を監視できるシステムの開発を行います。
- ・第6回産学官連携推進会議（内閣府、日本経済団体連合会など主催）に、負担のない効率的な歩行をサポートするための「ウォーキングナビゲーションシステム」、視覚障害者と健常者が同じ立場で楽しめるトランプ「ICタグを用いた新しい遊戯装置」を出展し

ました。

- ・大阪府の「ロボット・情報家電分野での製品化プロジェクト」に「多様な材質に対応した点字板作成自動化装置の開発」が採択されました。

④補助金・受託事業

- ・科学研究費補助金

研究課題「ナノ位相トモグラフィー走査型透過電子顕微鏡の開発」（事業費 102,700 千円）など文部科学省助成の科学研究費補助金は、採択件数 33 件で事業費総額は 191,028 千円です。

- ・学術フロンティア事業

平成 10 年度に採択された文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業のうち「学術フロンティア推進事業（界面領域新機能材料の研究）」の継続事業（平成 15 年度から平成 19 年度まで）を実施しました。事業費は 16,650 千円です。

- ・経常費補助金特別補助

エレクトロニクスの基礎分野における研究に貢献するために設置されたエレクトロニクス研究所を申請しました。補助申請額 37,888 千円です。

- ・受託調査研究

JST（独立行政法人科学技術振興機構）を含む、学外から委託を受けた受託調査研究は 30 件で、19 年度事業費総額は 242,846 千円です。

⑤その他

- ・自由工房

「ものづくり」に関心をもつ学生の課外活動を多面的に支援するために設けられた自由工房では自由工房運営委員会にて重点プロジェクトを決定し活動しています。

レスキューロボットプロジェクトの「救命ゴリラ」は、「レスキューロボットコンテスト」で総合 2 位、また、第 2 号機の「ベー子」はベストロボット賞を獲得しました。

ロボット相撲では、「第 19 回全日本ロボット相撲大会」への出場を果たし、上位入賞を相次いで果たしました。

- ・臨床工学技士

医療福祉工学部医療福祉工学科卒業後に受験した臨床工学技士国家試験に 25 名受験し、23 名合格しました。

ハ、教育研究環境整備関係

大学関係

主な施設事業

①ニューエデュケーションセンターの建築

寝屋川キャンパスの体育館跡地にニューエデュケーションセンターを建築中です。延べ床面積は約 1 万 6100 m²で 7 階建、建築事業予算は 3,360,390 千円、平成 20 年 10 月完成予定です。

②その他の主な施設事業

四條畷学舎第 2 グラウンド整備工事	155,473 千円
寝屋川学舎高圧受変電設備導入工事	144,375 千円

高 校

主な施設事業

守口学舎 C 号館（北側）屋上防水工事（8,978 千円）、その他受水槽更新工事など実施しました。

3 財務の概要

学校法人は、決算に関する書類として、毎会計年度ごとに資金収支計算書、消費収支計算書及び貸借対照表（以下「主要 3 表」という）の計算書類、事業報告書及び財産目録を作成しなければなりません。

主要 3 表

①資金収支計算書

当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容と当該会計年度の支払資金に収入及び支出のてん末を明らかにするために作成される書類です。

②消費収支計算書

当該会計年度の消費収入及び消費支出の内容と均衡の状態を明らかにするために作成される書類です。

③貸借対照表

日々の取引の結果に基づいて、年度末における財産の状態を明らかにするために作成される書類です。

事業報告書

学校法人の当該年度の概況を説明する書類です。

財産目録

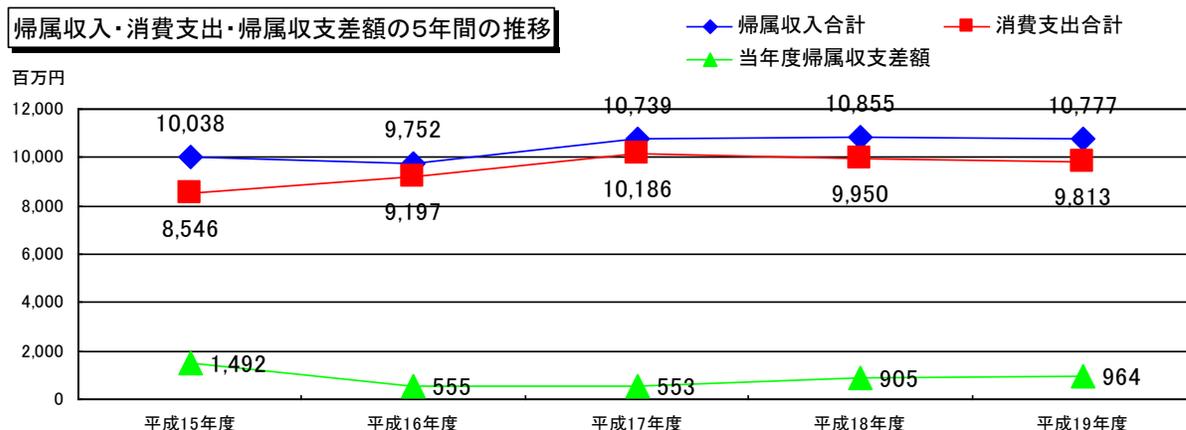
一定時点における学校法人の資産と負債について、個別的に価格を付して記載した明細表をいいます。

過去 5 年間の推移

消費収支状況の推移

消費収入の部	(単位 100 万円)				
	15 年度	16 年度	17 年度	18 年度	19 年度
学生生徒納付金	8,119	7,940	8,293	8,272	8,080
手数料	248	218	202	143	127
寄付金	79	44	55	42	62
補助金	1,006	1,010	1,089	1,217	1,236
資産運用収入	153	154	189	269	293
資産売却差額	3	11	26	89	125
事業収入	150	183	282	221	265
雑収入	280	192	603	602	589
帰属収入合計	10,038	9,752	10,739	10,855	10,777
基本金組入額合計	△2,285	△2,003	△517	△1,013	△1,082
消費収入合計	7,753	7,749	10,222	9,842	9,695
消費支出の部					
	15 年度	16 年度	17 年度	18 年度	19 年度
人件費	5,075	4,827	5,929	5,680	5,486
教育研究経費	2,874	3,321	3,330	3,543	3,468
管理経費	530	823	628	667	674
借入金利息	21	15	11	26	39
その他支出	46	221	288	34	146
消費支出合計	8,546	9,197	10,186	9,950	9,813
当期消費収支超過額	△ 793	△ 1,448	36	△ 108	△ 118

(注) 消費収支計算の結果を表す当期消費収支超過額は、当年度における消費収入と消費支出の均衡状況を表します。学校法人は、学校を維持し、良質な教育研究活動を永続的に行うことを目的として、長期的な収支均衡を求めるもので、単年度の収支均衡まで求めるものではありません。



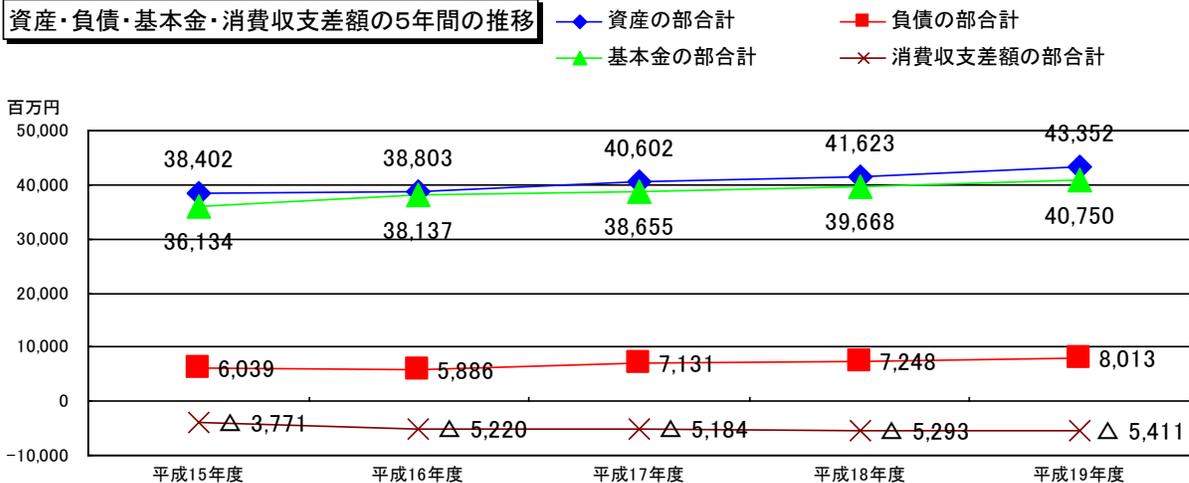
財政状況の推移 (貸借対照表)

(単位 100 万円)

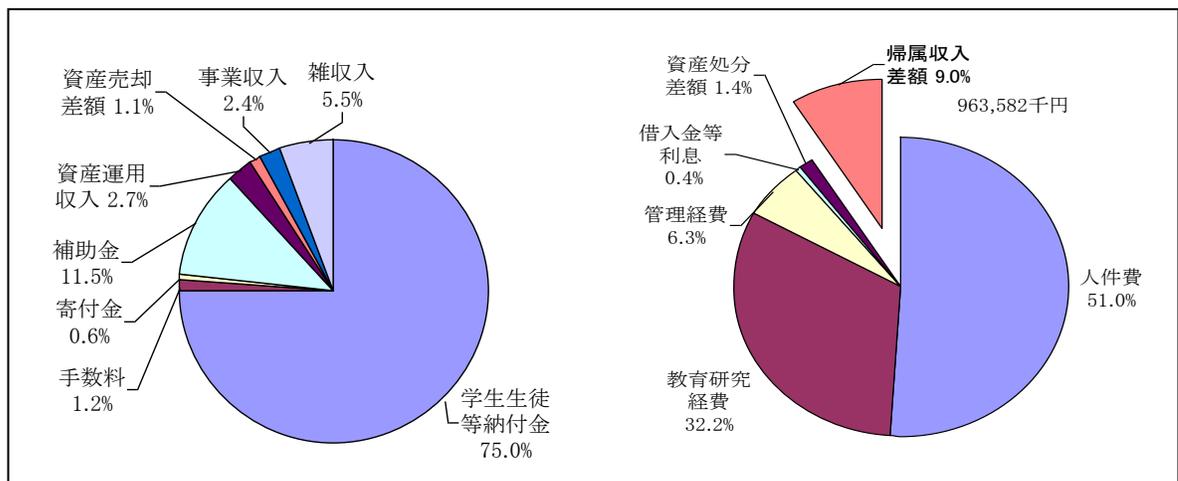
	15 年度	16 年度	17 年度	18 年度	19 年度
固定資産	32,852	34,068	35,324	36,579	38,273
(有形固定資産)	24,909	26,310	27,021	27,861	29,101
(その他の固定資産)	7,943	7,758	8,303	8,718	9,172
流動資産	5,550	4,735	5,278	5,044	5,079
資産の部合計	38,402	38,803	40,602	41,623	43,352
負債	6,039	5,886	7,131	7,248	8,013
(固定負債)	3,261	2,782	3,676	4,190	5,042
(流動負債)	2,778	3,104	3,455	3,058	2,971
基本金	36,134	38,137	38,655	39,668	40,750
翌年度繰越消費収支差額	△3,771	△ 5,220	△ 5,184	△5,293	△ 5,411
負債・基本金・消費収支差額合計	38,402	38,803	40,602	41,623	43,352

(注) 基本金は、学校法人が、その諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために維持すべきものとして、その帰属収入から組み入れた金額です。

資産・負債・基本金・消費収支差額の5年間の推移



本学における平成 19 年度決算は、
学園の経営成績をあらわす消費収支計算書からみて、
 帰属収入および消費支出の内訳



(1)消費収入の部

①学生生徒納付金

大学・高校では、学生・生徒数が減少し、短大は平成 19 年度より募集停止したことにより全体で、前年度より 192,559 千円の減収となりました。

②寄付金

一般寄付金、企業からの奨学寄附金などが、26,809 千円、現物寄附は、35,440 千円です。

③補助金

大学では、定員数に対する学生数の割合が改善されたこと、大学改革推進補助金が前年度より増加したことなどで、補助金全体で前年度より 71,190 千円増加しました。一方、高校では、研究設備整備費補助金が前年度より増加しましたが、生徒数の減少により経常費補助金が減少したことなどで 21,977 千円減少しました。

④資産運用収入

主なものは、預金、有価証券、特定資産の受取利息・配当金収入で前年度より

24,662 千円増加しました。

⑤ 帰属収入

平成 19 年度法人全体の帰属収入（負債にならない収入）の合計は、10,776,812 千円であり、前年度より 77,946 千円減少しました。

⑥ 基本金組入額

基本金の組入れは、当年度に自己資金で取得した固定資産の額と、当年度除却した固定資産の額の差額を組入れ、借入及び未払金で取得した固定資産の額は、借入金返済又は、未払金の支払の年度に組入れることとなっています。

(2) 消費支出の部

① 人件費

前年度に比べ退職者が減ったことなどで、前年度より、194,224 千円減少しました。

② 教育研究経費・管理経費

施設修理費、演習室の機器リース料など、減価償却費 1,064,606 千円も含め、教育・管理経費合わせて、4,142,041 千円となりました。

③ 借入金等利息

長期借入金の増加で、前年度より 13,264 千円増加しました。

④ 資産処分差額

機器備品・図書などの廃棄による資産処分差額で前年度より 111,845 千円増加しました。

⑤ 消費収支差額

当期の消費収支差額は予算では 517,682 千円の消費支出超過額を計上していましたが、基本金の組入額の減少、消費収入の増加などにより、117,953 千円の消費支出超過となりました。

学園の財政状態をあらわす貸借対照表からみて、

(1) 資産の部

① 固定資産

○ 有形固定資産

寝屋川学舎ニューエデュケーションセンター新築（平成 19 年度支払分）、四條畷学舎第 2 グラウンド整備工事などにより、前年度より 1,239,704 千円増加しました。

○ その他の固定資産

将来の施設設備等の拡充のため引当特定資産を組入れたことなどにより前年度より、453,071 千円増加しました。

② 流動資産

有価証券は前年度に比べ 227,652 千円増加し、流動資産全体では前年度より 35,531 千円増加しました。

(2) 負債の部

① 固定負債

○ 長期借入金

総事業費 3,360,390 千円のニューエデュケーションセンター建築のため、1,000,000 千円の借入を行いました。

以 上